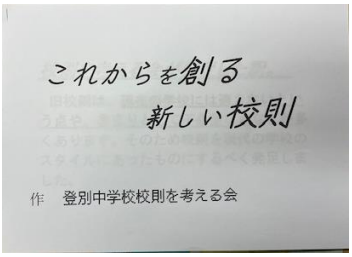
登別中だより

３年生の見守りの中、一生懸命引継ぎ式に向けて練習しました

【教育目標】すすんで学び 正しく判断する（知） 思いやりを持ち きびしさに耐える（徳） 命を大切にし 心身を鍛える（体） 令和５年２月２４日発行 No.11

「あとから来る者のために　～校則を考える会の取組から～」　登別中学校長　寺岡　弘



２月１４日（火）のお昼休みに１年生から３年生までの「登別中学校校則を考える会」のメンバーが校長室にやってきました。完成した新校則（案）を手渡しに来たのです。最初に、会長の関川さんから「旧校則には現在の学校には適さない点や不必要な点があることから、現代の学校のスタイルに合ったものにするために会を発足しました。」と説明があり、その後、話し合いでまとまった「これからを創る新しい校則」が手渡されました。話を聞いてみると、６月に発足した後１５回くらい話し合いがあったそうです。「１年生、２年生の意見も反映されているんですか？」とし質問しましたら、全員が納得の表情でうなずいていました。きっといい話し合いができて、素晴らしいものができたんだろうなと感じました。

会議を進めている記録を見てみました。「校則について考える会」のコンセプトがありました。○自分たちのきまりは自分たちで決める　○決めたからには、率先して守る意識を見せる　○「自分のため」のきまりではなく「みんなのため」のきまりを考える　○全ては、全校生徒のより良い学校生活のために、というものです。１年生から３年生までの計９名で「みんなのために」考えて決めたのです。素晴らしい経験になったと思います。ともすれば、自分に都合のいいような「ゆるい」きまりにすることも可能だと思いますが、「公正・公平」にしっかりと次の年度を見据えて取り組んでくれました。

第１回目の話し合いでは、最初に「校則はなぜ必要か」について話し合っています。校則の改定ありきからではなく、なぜ校則が必要なのかを話し合ってから進めています。その中で出た、理由をまとめたものが「①礼儀、社会性、常識を学ぶのが中学校。そのために決まりがある。②大人になるための土台づくり。③自分の知らない知識や常識を身につけるため④時代に合わせて変化も必要。」です。その点を十分に理解し、現校則の課題を浮き彫りにして、改革案へと段階を踏んで進んでいました。２月１６日に全校へ校則の改定案を紹介し、２２日の職員会議を経て、決定、令和５年４月からの運用へと続いていきます。決定した後は、みんなのために考えられた校則を大切にして生活してほしいです。そして、全校生徒のよりよい学校生活につながってくれたら…と思います。変更した内容の項目は、「制服及びジャージ下の衣類」「頭髪」などがありますが、後日決定したものを登別中ホームページで公表したいと思います。

３年生の中で、校則を考える会のメンバーは４名です。その４名の生徒にとってみれば、自分たちの代には校則の改定は関係のないことです。でも、後輩のために一生懸命考えてくれました。「次の世代につなぐ」ために積極的に考える会に参加し、労力をいとわず校則を考えてくれた３年生４名には拍手を贈りたいと思います。

坂村真民（さかむらしんみん）という詩人がいました。大震災の復興の時に話題になっていた詩ですが、「あとから来る者のために」という詩を思い出しました。この詩は「それぞれが次の人のことを考え、苦労をして、我慢をして、自分にできる何かをしていこう」という意味だと思います。震災の時はどちらかというと物質的なものだったと思いますが、今回の校則の改定は「もの」ではありません。しかし、次の世代に残っていくことを考えると、とても大事なことと思いました。一つ一つの校則を考え、どうしていくことがいいのかを考えた時間は大変だったと思いますが、貴重な体験だったと思います。

また、話は変わりますが「次の世代につなぐ」ために労力をいとわないのは、登別中学校の伝統芸能「熊舞」も同じです。２５日（土）土曜授業日の熊舞引継ぎ式で全校の前で演舞します。１４日（火）の総合的な学習の時間では、３年生が２年生に熊舞を直接教える場面がありました。２年生もそれに応えて精一杯頑張っています。登別中の伝統は確実に次の代につながっています。うれしい限りです。

「あとから来る者のために」
坂村真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を　川を　海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦労をし　我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくのだ

ビブリオバトル　in　登中

２月７日（火）に学習専門委員会主催で、ビブリオバルが実施されました。参加者は１年生５名、２年生７名の計１２名です。４人ずつの３グループを作り、各グループからチャンプ本を選びました。１人に与えられた時間は３分。この３分で紹介した本が読みたくなるように話の内容などをまとめて話します。見事チャンプ本に選ばれたのは、２年生　日野聖雅君「５４字の物語　参」、２年生　草替羽那さん「３分間ミステリー　真実はここにある」、２年生　高橋隆成君「恐怖のひき肉ソーセージ」でした。本の紹介の中では、「私は感動しました。」から始まって、興味を引く話し方をする工夫もしていました。どの生徒も「絵があって読みやすいです。」「かっこいい言葉を知りたいならこの本。」など熱く語っていました。本好きになるような取り組みを今後も続けてほしいと思います。自宅での読書時間が増えてくれると嬉しいですね。

ちなみに、小６の時、私が初めて自分で買った本は文庫本で、ショートショートの大家である星新一の「ノックの音が」でした。図書室にシリーズで置いてありますので、本の入門編として生徒の皆さんにも是非読んでほしいです。ストーリーが短くてオチがわかりやすいので、面白くて一気読みしたのを今でも覚えています。さて、図書室で日野君推薦の「５４字…」を見てきました。５４文字で何を書くのかなと思いましたが、なるほどでしたね。裏面の解説も面白い。「おきゃくさまようトイレ」も「あ～そういうことね。」のオチでした。

２学年　救急救命講習

１月３０日（月）に２年生で救急救命講習が行われました。一人一人が実際に消防職員の前でＡＥＤを使った救急救命の措置を行いました。最初は倒れている人を発見してから、身の回りの安全の確認。次は心肺停止の確認。その後は周りに声を出して、救急車とＡＥＤの手配。手配している間に胸骨圧迫。「一、二、…」と声を出しながら胸骨圧迫の継続。ＡＥＤが到着してから、ＡＥＤの指示通りにし、ＡＥＤが電気ショックが必要かどうか判断します。そして電気ショック。また、胸骨圧迫の繰り返し。全員が一通り体験し、生徒の皆さんはしっかりと学ぶことができました。実際に、倒れている人を見たときには冷静ではいられないかもしれませんが、どんなことがあるかわかりません。しっかりと覚えておいてほしいと思います。

今回講習で初めて知ったことは、ふつう心臓が止まると呼吸も止まりますが、突然の心停止直後には「死戦期呼吸」と呼ばれる、しゃくりあげるような途切れ途切れの呼吸が見られる事も少なくないということでした。ですから心肺停止の判断をするときに、反応のない傷病者では呼吸の観察が重要となるそうです。傷病者の呼吸を観察するためには、胸と腹部の動き（呼吸をするたびに上がったり、下がったりする）を見て、胸と腹部が動いていなければ、呼吸が止まっていると判断するそうです。講習は、一度受けたことがあるから大丈夫ではなく、やはり何回も受けることが大切だと感じました。

３月行事予定

１日（水）　家庭学習日　１年お弁当日
２日（木）　公立高校入試日　専門委員会
３日（金）　公立高校面接
６日（月）　３年奉仕活動
８日（水）　３年生を送る会　あいさつ一声
　　家庭学習日
９日（木）　卒業式総練習
１０日（金）　第７６回卒業証書授与式
１３日（月）　あと片付け
１５日（水）　職員会議　家庭学習日
１７日（金）　公立高校合格発表
　　お茶の間会議（１年）
２１日（火）　春分の日
２２日（水）　家庭学習日
２３日（木）　１・２年大掃除
２４日（金）　修了式・離任式
２５日（土）　年度末休業（～３月３１日）
※　４月３日（月）　担任発表
　　７日（金）　着任式　始業式　入学式